高知県黒潮町における森林環境譲与税の活用について

■活用状況（全体像）

区分	令和元年度～令和6年度	令和7年度	計	令和7年度末時点での活用率（%）	未執行額の活用方針
活用額（円）	137,107,524	32,899,839	170,007,363	98.14	基金に積み立て次年度で活用
譲与額（円）	137,787,000	35,450,000	173,237,000		

■令和7年度の具体的な活用状況

区分	事業区分	事業費（円）		事業内容
			うち森林環境譲与税	
森林整備	新たな森林管理システム意向調査・境界測量委託	19,096,000	19,096,000	森林の整備を推進するために、本谷地区の境界の明確化事業(131.85ha)　意向調査(152.44ha)　林分の調査(84.86ha)　集積計画の同意取得(6.36ha)を実施した。
森林整備	森林経営管理事業委託	2,882,000	2,882,000	集積計画に基づき、市町村管理森林となった私有林に於いて10.17haの保育間伐を行った。
森林整備	入野松原維持管理等委託（下刈り）	2,222,000	2,222,000	入野松原(町有林)内の下刈りを行い森林保全を行った。(13.75ha)1回程度　部分的には2回実施。
森林整備	入野松原松苗植栽委託	1,243,000	1,243,000	入野松原再生計画に基づき、マント群落形成のための海岸前線に抵抗性マツ苗を植栽した。(1000本)
森林整備	入野松原維持管理等委託（除草作業）	1,263,342	1,263,342	入野松原再生計画に基づき、集中管理ゾーンの草引きを実施した後、松葉かきにより裸地を維持して、かつての松原の姿「白砂青松」を再生した。
森林整備	会計任用職員報酬	213,300	213,300	事業の円滑な推進のために林業専門員としての会計任用職員1名を雇用した。

森林整備	幡多地域もりづくり推進センター負担金	1,285,497	1,285,497	森林管理システムを円滑に推進するために、幡多広域で組織した当該センターへの運営負担金として活用した。
森林整備	入野松原枯松等伐採処理業務	786,500	786,500	マツ材線虫病被害により枯死木となったマツを早期に伐採・搬出し、被害を最小限にとどめた。
森林整備	黒潮町森林環境保全整備事業費補助金（造林事業）	10,933,700	633,700	多面的機能を高度に発揮することのできる森林の育成を基本理念とし、適期適正保育による森林整備率の向上を通じた森林、林業の振興を図るために、高知県造林補助事業の適用を受けた森林施業に上乗せして予算の範囲内において補助を行った。
森林整備	本谷地区作業道舗装資材及び修繕費	1,182,178	1,182,178	作業道を遊歩道として活用するために本谷地区有志が行う整備作業に対して、その資材購入等を支援した。
木材利用	町産材利用促進事業補助金	3,375,000	2,093,000	森林木材の需要を喚起し、林業の持続的な発展を図るため、民間住宅を対象に町産材の購入に際して補助を行った。（R6年度繰越 1件937千円　R7年度完了3件2,438千円）
	利子積立		-678	基金利息による歳入
歳　出　合　計		44,482,517	32,899,839	
基金積立			3,229,637	

■令和７年度の取り組み事例

39428　高知県　黒潮町

- 黒潮町には、太平洋に面する海岸に広がる延長約４ｋｍの「入野松原」がある。1928（昭和3）年に国の「名勝」に指定され、古くから地域住民に親しまれている。「入野松原」は、後背地の農地や集落を風害や飛砂から守り続けている。しかし、近年クロマツ林がマツ材線虫病被害により枯損し、無立木地や疎林が広がっている。このままでは、白砂青松を形作ってきた町民の誇りである美しい景観が、失われようとしていた。
- このような危機的な状況を克服すべく、「入野松原再生計画」を策定し、保全と活用がリンクして防災機能が向上し、多様な団体・個人による保全活動が活発化して、日常的に広く利用される松原を目指している。その保全活動のひとつとして、無立木地に抵抗性マツの苗を植栽し松原の再生を図っている。

□　事業内容

入野松原松苗植樹委託事業

- マツ材線虫病に抵抗性のある、高さ30～50cmの１年生又は２年生の苗木を1,000本購入している。植栽後、苗木が小さい期間は、除草作業が必要であり、作業中に誤って刈り払ってしまうリスクもあり、一時的に苗畑に植栽し、１ｍ程度まで成長させ、枯損による無立木地等に定植している。海岸前線に植栽する場合は、防風柵の設置を合わせて実施している。

【事　業　費】2025（令和７）年度　1,243千円（全額譲与税）

【実　　績】抵抗性マツ（ｽｰﾊﾟｰｸﾞﾘｰﾝさつま）1,000本を植樹した。

□　取組の背景

- 2013（平成25）年以降、枯れたクロマツが目立つようになり2017（平成29）年から2019（令和元）年にかけては、6,800本以上の枯死木を伐採しなければならない事態であった。2020（令和２）年度から薬剤散布時期を見直し５月に開始し、１月には薬剤の樹幹注入を実施した。そして枯死木の林外搬出・焼却処分は随時実施した。これらの対策が奏功し、枯死木は年間約200本まで減少した。除去してできた空間にマツ材線虫病に抵抗性のあるクロマツの苗を植栽し、松原の再生を図る必要があった。


（マツ材線虫病被害にあった松原）


（林間学校での植樹の様子）


（防風柵内に植樹された松苗）

□　工夫・留意した点

- 鹿児島県吹上浜を視察し、マツ材線虫病に抵抗性の高いクロマツの苗を確保している。
- 海岸前線の防風柵及び案内サイン等は、県産材を利用している。
- 松苗植樹作業に合わせて、地元の森林組合と入野松原保存会及び四万十森林管理署等の関係団体と連携して、小学生を対象に「林間学校」を開催し、森と緑の会から提供されたクロマツの苗400本と、森林組合からの100本と合わせて1,500本を植栽している。

□　取組の効果

- 伐採駆除と並行して、枯死木を伐採してできた空間に抵抗性のあるクロマツの苗を新たに植栽し、松原の維持に努めている。植栽本数は、毎年1,000～1,500本となっており、2013（平成25）年から2025（令和7）年にかけての植栽本数の合計は、11,455本となり、枯死して伐採駆除した本数11,573本とほぼ同数となった。これにより疎林区域が減少した。
- 関係団体と連携して松苗植樹作業を実施したことにより、毎年約100名のボランティアが集い、松原保全の活動が進められている。

◇　基礎データ

①令和７年度譲与額：35,450千円	②私有林人工林面積（※１）：4,186ha	
③林野率（※１）：78.9%	④人口（※２）：10,262人	⑤林業就業者数（※２）：46人

※１：「2020農林業センサス」より、※２：「R2国勢調査」　より